

3. 11以降～東北の文化を考える～

三地域横断座談会『なぜ その地に 居続けたいのだろう？』

平成26年9月26日（金）石巻編

ご挨拶

大地がそうなると思う時、その声に耳を澄ませ、あしたの世界がそれに叶う美を纏える姿を私たちは設計する仕事です。萬画館を設計した建築家でもあり、未来の夢の設計者でもある黒木さんがお声掛けし、石巻からその夢を共に育む方々を本日はパネラーとしてお迎えしました。皆様に今の石巻の心をお運びいただき、その喜びや悲しみ 明日への思いを少しでも共有するための一理塚、良い座談会になることを願っております。

情報文化部会部会長 坂上直哉

石巻の市街地を中心に流れる、旧北上川の下流には広大な汽水域が広がっています。“この水面が見えなくなってしまうたら、そこはもう自分たちの故郷ではない”街の人たちは口々にそう語っていると、聞いています。3.11…東日本を襲った巨大地震とその後に生じた大津波…あの強烈な体験をしてもなお、何故、その想いを共有していただけるのか。街の力、場所の力とはどのように作られ、伝えられているのか。かつては米の集積地でもあり、千石船の行きかう東北地方きっての物流拠点でもあった歴史ある街、石巻。石ノ森萬画館のある中瀬を中心に、川は人を育み街は人を集め、様々な文化や絆を繋ぎ続けてきました。本日は石巻の方々、またその復興を支援してこられた方々をお招きして、“なぜ その地に居続けたいのか”お話いただきたいと思います。

出演者紹介

狩野章（カリノ アキラ）

石巻公演「バレエが街にやってくる」実行委員長。萬画館立ち上げ、中心市街地活性化イベント事業に尽力。震災前はマリンピア松島水族館企画営業部。現在、新規観光施設のプロデュースに従事。

阿部紀代子（アベ キヨコ）

市内にて4代続く料亭八幡家の女将。萬画館立ち上げのキーウーマン。街の世話役として地域を纏める存在。

野口隆亮（ノグチ リュウスケ）

東京在住。銀座で美容院を開く若手ベンチャービジネスマン。「バレエが街にやってくる」仕掛人。

黒木正郎（クロキ マサオ）

日本設計にて石ノ森萬画館を設計。震災後、石巻の男子中学生にクラシックバレエを見せたいと松山バレエ団による「バレエが街にやってくる」を発案。今回の座談会まとめ役。

高橋圭太郎（タカハシ ケイタロウ）

石巻座談会司会進行役。情報文化部会メンバー。織部製陶東京営業所長。

主催：一般社団法人日本建築美術工芸協会 調査研究委員会情報文化部会

協賛：織部製陶株式会社 菊川工業株式会社 中村ブレイス株式会社 株式会社平和合金 株式会社ベクトル 安井建築設計事務所

メンバー：坂上直哉（部会長） 露口典子（副部会長） 高橋圭太郎 立松直樹 中川一人 中村仁美 藤田益一 吉川盛一 吉野ヨシ子

開催協力：小野行雄 七字祐介 南三一郎